

平成 30 年度 札幌国際大学奨励研究費（共同研究）

一般社団法人北海道商工会議所連合会との人材育成に関する産学連携プロジェクト報告書 ～早期の企業訪問による、就業・キャリア意識向上についての研究～

札幌国際大学 原一将、武井昭也

札幌国際大学短期大学部 小林純、石田麻英子

連携共同研究先 一般社団法人北海道商工会議所（道商連）

1 はじめに

2015 年（平成 27）年 4 月 2 日より、一般社団法人北海道商工会議所連合会と札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部（以下、本学）は、北海道における人材育成について積極的な連携・協力をを行うことにより、北海道経済の成長と人材育成に寄与することを目的とし、人材育成に関する連携協定を締結した。この協定には、企業の人材ニーズに関する調査研究や学生に向けたキャリア意識に関する調査研究、人材教育の現状・課題と新たな教育課程の設定に向けた意見交換の実施などが含まれている。連携協定締結から四年目を迎えた今年度は、昨年に引き続き、社会人講座と企業訪問を実施したが、キャリア教育の構築や企業の採用活動に有益となっただけでなく、地方創生の観点からも大きな成果を得ることができた。

本研究に於いては「早期から企業訪問や社会人との接点を増やすことで、学生の就業・キャリア意識を向上させることができる」との仮説を立て、学生と企業の接点を可能な限り多く設定することに主眼を置いた。対話の中から得られる社会人の実際の生活、就業への意識や取り組み方、プライベートでの過ごし方、地方で働くことの魅力などについての情報が、学生の持つ既存の大人像とは異なることを想定しており、またその対話や実際の訪問の経験から、学生がどのような心境の変化を起こすのか（また起こさないのか）を調査することができるよう、講義や訪問（フィールドワーク）を企画することとした。

研究成果は、本学のカリキュラム編成、キャリア教育、就業支援に寄与できるものであり、同時に、企業にとっても学生が就業前に抱えている不安や就業後への期待を知る機会となり、また新卒社員の育成・コーチングを検討する際の一助となることを期待している。さらに大都市圏だけに固執しがちな学生の就職活動に対して、一石を投じるアンチテーゼになれば幸いである。

2 事業内容

2-1 社会人講座

2015（平成 27）年度から継続して実施しているもので、今回の開催が 4 回目となる。キーワードは[道内企業][中小企業][地方企業][経営者または重役]である。今回は 5 名を講師として招聘し、事業の内容や仕事への取り組みについて学生と直接対話を行うスタイルで講義を行ったが、ラウンド形式で 1 社 15 分とし、参加学生全員が全社の話を聞けるようにした。また、昨年度同様、研究の趣旨から、事業の様子だけでなく、仕事以外の生活やプライベートでの活動など、学生と社会人の違いについても触れていただくよう依頼、学生がリアルな「社会人」を感じることで、自ら持つ社会人のイメージが変化したかを、受講後のリアクションシートから観察した。

日程の都合上、スポーツ人間学部 2 年次生 125 名、短期大学部総合生活キャリア学科 1 年次生 57 名のみを対象とせざるを得ず、全学を対象とできなかったことは残念であったが、受講者は経営者の思考や社会人の就業観についてイメージをつかむことができたようであった。

日程：2018（平成 30）11 月 21 日（水）13:00～14:30

場所：1 号館 4 階

授業名：スポーツ人間学部「キャリアデザインⅡ」内、総合生活キャリア学科「プレゼン

テーション応用」内で実施

講師：①サービス業（紋別市）

株式会社きたみらい 代表取締役 岸山絵里子 様

②ホテル業（阿寒町）

鶴雅リゾート株式会社 総務人事部 次長 久保田哲正 様

③飲食業（苫小牧市）

株式会社久恵比寿 代表取締役 畑中 稔 様

④介護福祉業（留萌市）

株式会社ファミリーケアサポート 代表取締役 田中 卓 様

⑤ホームセンター（北見氏）

株式会社坂本ホーム様 代表取締役社長 坂本 勤 様

実施方法：5 つの教室に学生を分散させ、1 教室あたり 30 名前後、1 社 15 分のラウンド形式で開催、1 回の講義終了後、講師は教室を移動、5 回終わった後、学生はリアクションペーパーへの記入を行う。



2-2-2 社会人講座の効果と以降の展開

講師のアレンジメントは道商連と本学とで調整し、学生と積極的に関わりたい会員企業から選出した。講義内容については事前打ち合わせのみであったものの、詳細な注意事項を渡してあったため、最も危惧していた「単なる会社説明会」に終わることなく、各講師の身の上話から業務でのエピソード、また社会人の先輩としてのアドバイスなど、「リアル」な社会人としての話題提供、意見交換が行われた。参加学生の反応については詳細を別途報告とするが、大きく分けると以下の三点の理解を深めることができた。

- ① 認知していない業種・業界が数多くあること
- ② 社会人としての生活が必ずしも仕事一辺倒ではないこと
- ③ 地方に衣食住を構えることのメリットとデメリット

この三点の気づきを、気づきのままで終わらせないため、希望者を募り、企業訪問へと繋げているのが昨年度からの展開である。実際の職場を自分の目で見て、経営者だけでなく若手社員の話も聞き、地方都市に足を踏み入れることで、座学とフィールドワークが融合し、学びの相乗効果も高まっている。また、学生に書かせたリアクションペーパーを企業に渡すことで、今どきの学生の価値観、企業の捉え方など大変興味深い内容となり、自社の採用活動や若手社員の研修にも活かしていきたいという動きも出始めている。

2-2-3 企業訪問

社会人講座終了後から、講師所属企業への訪問を企画した。社会人講座で関心を持った企業への追加調査という形で、学生による情報収集または職場見学を実施し、ただ講義を聴くだけではなく、フィードバックとしての機能を企業訪問に持たせることを意図したものである。昨年度と違うところは、全員の学生が自主的に応募してきたということである。昨年度は手探りの説明であったが、今年度は昨年度の様子を見せながら説明できたことや、社会人講座における講師のインパクトが強かったことも要因として考えられる。

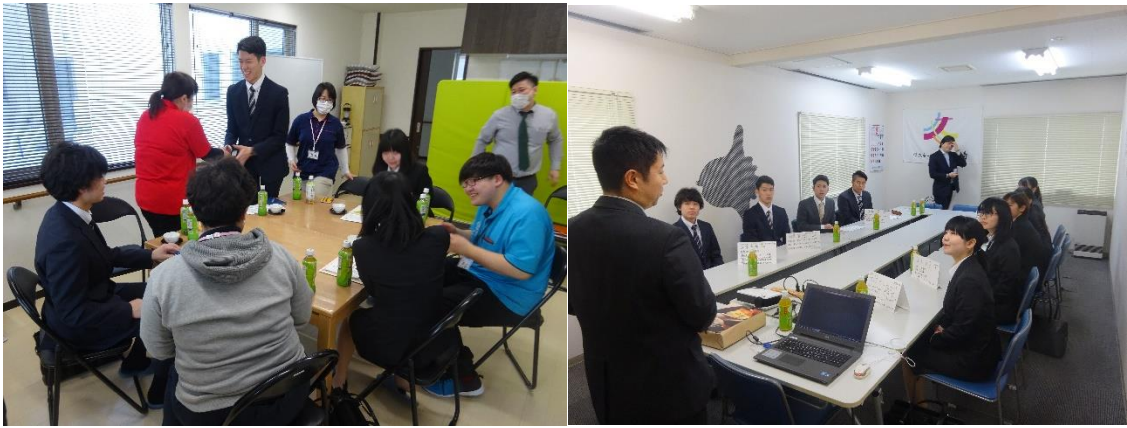
日程：2019（平成31）年2月12日～15日（北見、紋別、阿寒）

2019（平成31）年2月19日～20日（稚内、留萌）

2019（平成31）年2月26日（苫小牧）

訪問企業：株式会社ホームセンター坂本（北見市）株式会社きたみらい（紋別市）鶴雅リゾート株式会社（阿寒町）なかせき商事株式会社（稚内市）株式会社ファミリーケアサポート（留萌市）株式会社久恵比寿（苫小牧市）※なかせき商事株式会社は社会人講座には参加せず





2-2-4 成果報告会～今後の課題

社会人講座～道東・道北・道央における企業訪問を経て、自分たちの「学び」や「気づき」「発見」についての成果報告会を開催した。

日程：2019（平成31）年3月18日（月）

場所：札幌国際大学2号館4階

参加企業：株式会社きたみらい（紋別市）／なかせき商事株式会社（稚内市）／株式会社久恵比寿（苫小牧市）／株式会社ファミリーケアサポート（留萌市）

参加団体：一般社団法人北海道商工会議所連合会

「これまで大企業で働くのが格好いいと思っていたが、自分も一緒に会社を作っていける地方の中小企業もいいと思った」「初めて訪問した地方都市だったが、社会人の話を聴いて地方都市の生活スタイルがよくわかった」など、学生ならではの意見が多かった前半のプレゼンテーションであった。後半はフリートークであったが、どうやったら地方が活性化するか？についてのディスカッションも行われた。情報や物流の格差も昔より少なくなり、自然豊かな地方都市で暮らす利点は増している。悪い面だけでなく、このような良い面をいかにして学生が理解し、企業側も発信していくかが今後の課題であろう。

